

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成25年10月17日 (2013.10.17)

【公開番号】特開2013-179050(P2013-179050A)
 【公開日】平成25年9月9日 (2013.9.9)
 【年通号数】公開・登録公報2013-049
 【出願番号】特願2013-47739(P2013-47739)
 【国際特許分類】

F 2 1 S 4/00 (2006.01)

H 0 1 L 33/00 (2010.01)

【 F I 】

F 2 1 S 4/00 3 0 0

H 0 1 L 33/00 H

【手続補正書】
 【提出日】平成25年8月6日 (2013.8.6)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

配線を設けてなるフレキシブル基板に所定の間隔をおいて発光素子を配置して、上記フレキシブル基板が中空のチューブ状の軟性樹脂の中に挿入され密閉されることにより、上記フレキシブル基板を覆うようにした発光体であって、

上記フレキシブル基板には、数個の上記発光素子を一組とした一つのユニットが複数配列され、

上記フレキシブル基板の一面側に正負のいずれか一方の極の配線がプリントされると共に、他面側に他方の極の配線がプリントされ、

上記フレキシブル基板のユニット間は、上記フレキシブル基板の一面側の配線によって電氣的に接続されると共に、切断可能に構成され、

上記ユニット間が切断された際、切断された上記ユニット間には、当該切断箇所から配線可能な正負の電極が上記フレキシブル基板の一面側に形成され、

上記フレキシブル基板の一面又は他面にプリントされていた正負の極の配線は、上記ユニット間において、上記発光体が切断された際に上記フレキシブル基板の一面側に形成される正負の電極に接続している、

ことを特徴とするフレキシブル発光体。